

1. 市民アンケートの結果の概要（一部抜粋）

1/2

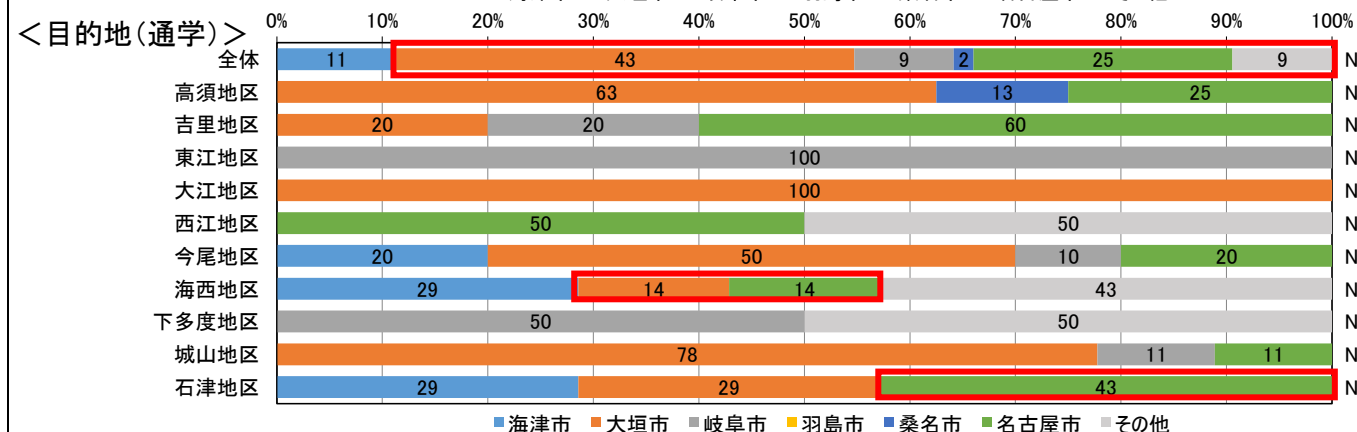
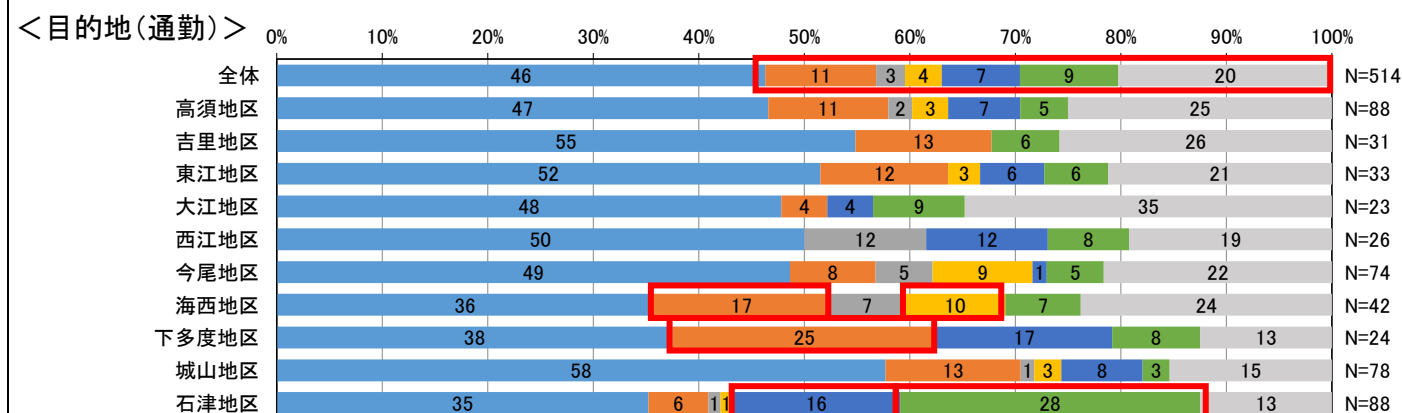
(1) 市民アンケートの概要

- 調査対象：15 歳以上の海津市民 3,000 人（住民基本台帳から無作為抽出）
- 調査方法：郵送配布・回収（7 月 18 日発送、8 月 5 日締切）
- 有効回答数：1,033 票（回収率 34.4%）

(2) 日常の生活行動

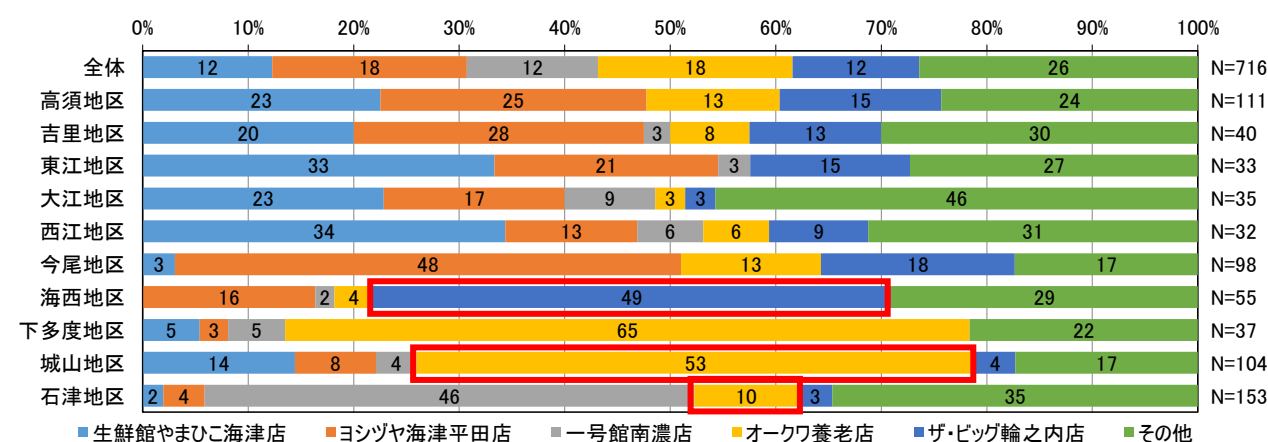
- 市民の通勤・通学先が市外である割合が高く（通勤 54%、通学 89%）。一部地域では顕著な結果となっています。

例)海西地区：大垣市・羽島市、下多度地区：大垣市、石津地区：桑名市・名古屋市

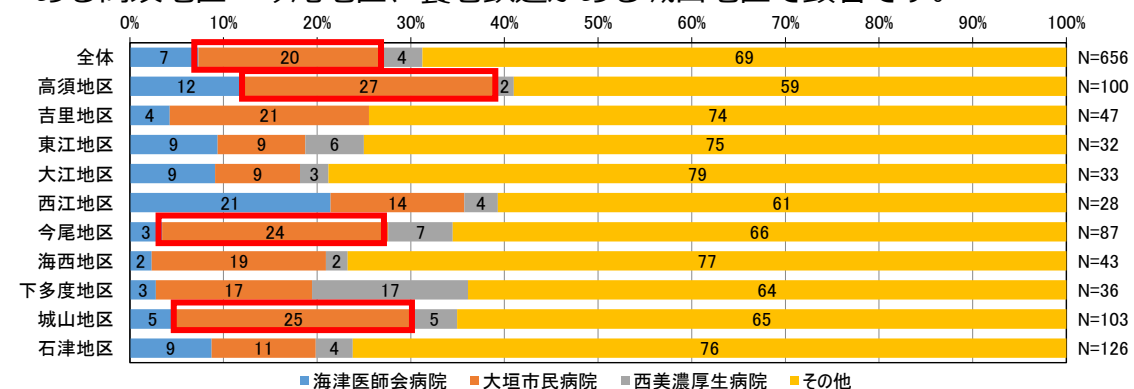


- 市民の買い物先についても、地区によっては市外である割合が高いです。

例)海西地区：ザ・ビッグ輪之内店、下多度地区：城山地区：オークワ養老店

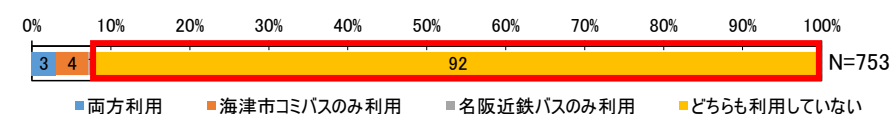


- 市民の通院先で最も多いのは市外の大垣市民病院で、約 20%です。特に名阪近鉄バス海津線がある高須地区・今尾地区、養老鉄道がある城山地区で顕著です。

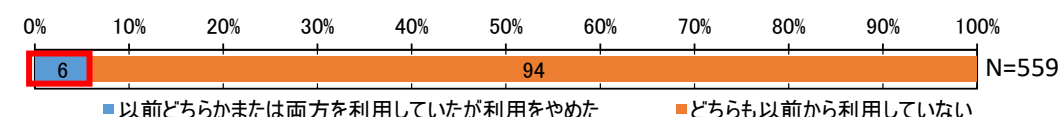


(3) 各種交通機関の利用状況

- 約 9 割の市民が、この 1 年間で海津市コミュニティバス・名阪近鉄バス海津線のどちらも利用していないと回答しています。

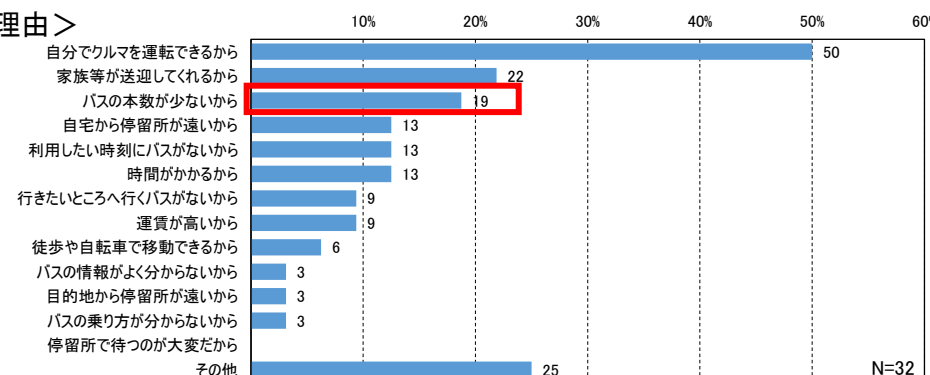


- この 1 年間で海津市コミュニティバス・名阪近鉄バス海津線のどちらも利用していないと回答し人のうち、約 6%の人が「以前どちらかまたは両方を利用していたが利用をやめた」と回答しています。



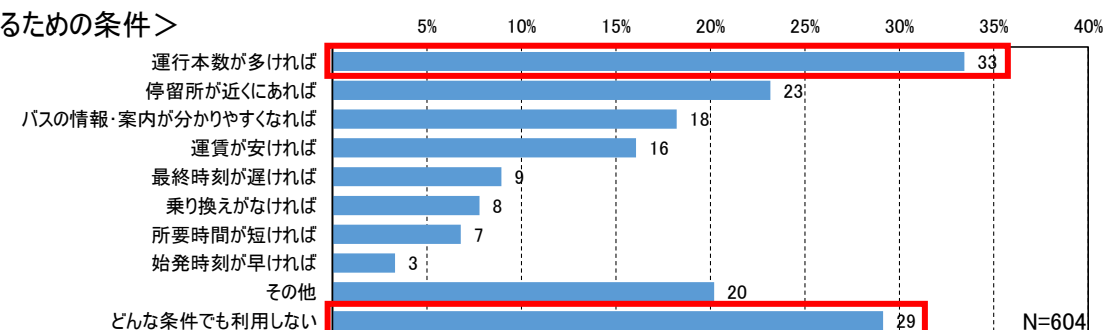
- 以前どちらかまたは両方を利用していたが利用をやめたと回答した人の約 19%が「バスの本数が少ないから」と回答しています。

<利用をやめた理由>



- 路線バスを利用するための条件として、「運行本数が多ければ」と回答した人は約 33%、どんな条件でも利用しないと回答した人は約 29%です。

<利用するための条件>

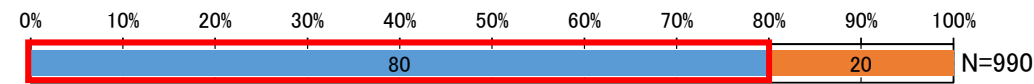


1. 市民アンケートの結果の概要（一部抜粋）

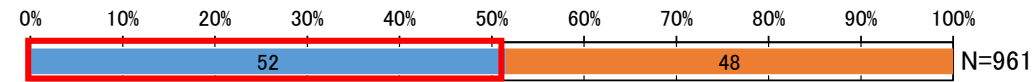
2/2

5) デマンド交通について、その存在は約 8 割の市民に認知されていますが、最寄りの乗降場所を把握している市民は約 5 割、利用経験がある市民は約 3%です。

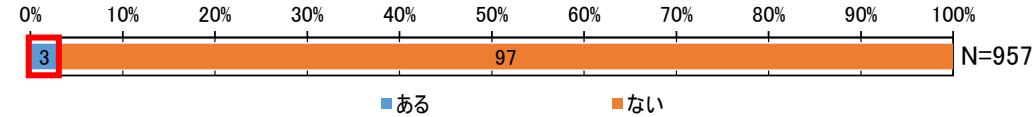
＜運行の認知＞



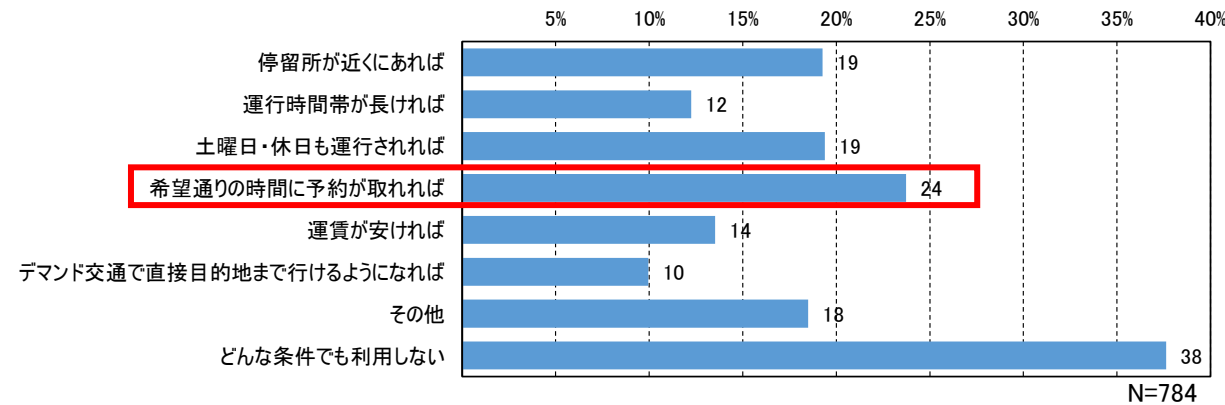
＜最寄り乗降場所の認知＞



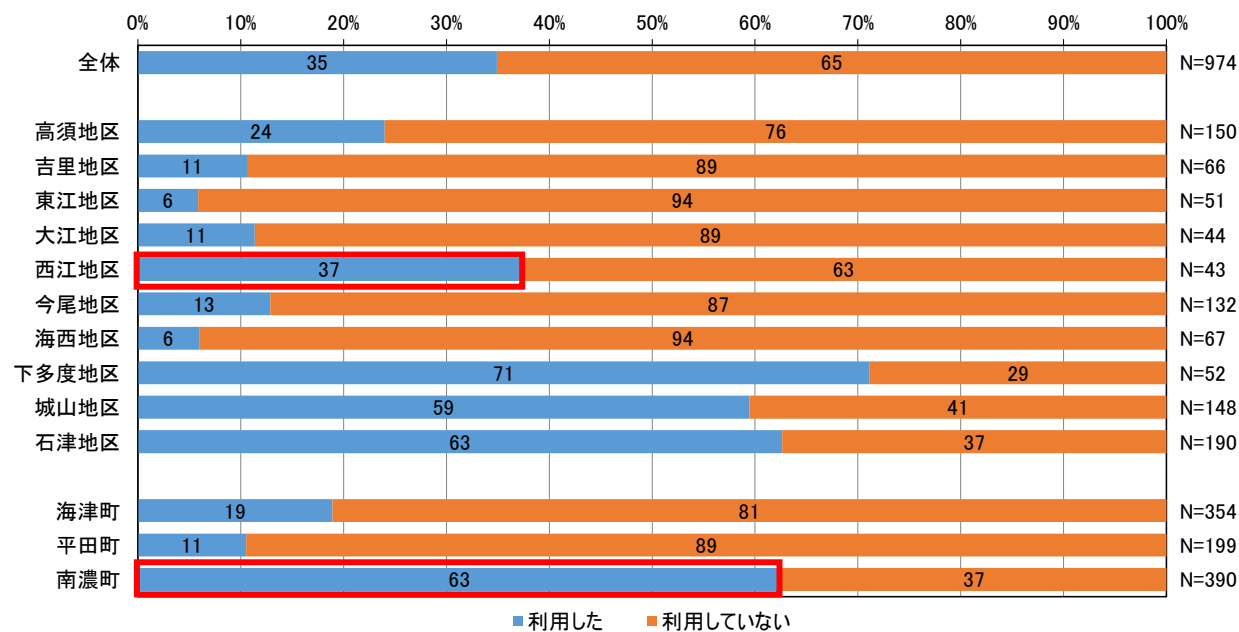
＜デマンド交通の利用経験＞



6) デマンド交通を利用していない人がデマンド交通を利用するための条件としては、「希望通りの時間に予約が取れば」が約 24%です。

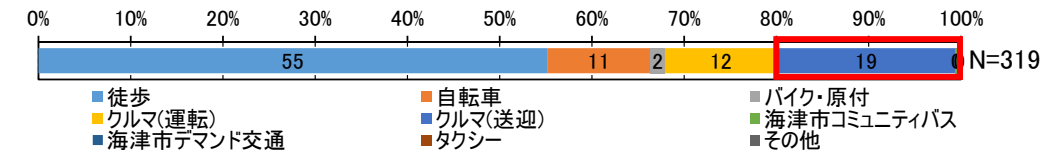


7) 養老鉄道については、南濃町（城山地区・下多度地区・石津地区）の 63%の市民がこの 1 年間で養老鉄道を利用したと回答しています。南濃町以外では、海津町の西江地区で約 37%がこの 1 年間で養老鉄道を利用したと回答しています（海津町全体では約 19%）。

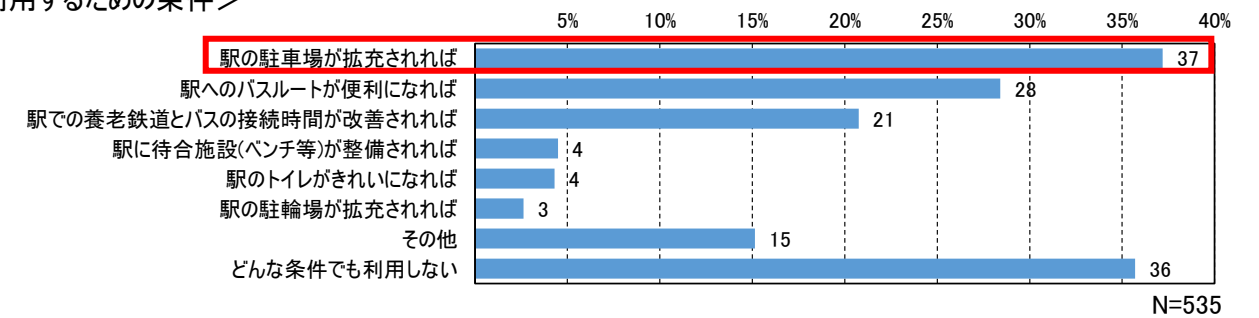


8) 養老鉄道の駅への移動手段のうち、徒歩以外では約 20%がクルマによる送迎です。また、約 37%が「駅の駐車場が拡充されれば」と回答しています。

＜駅への移動手段＞

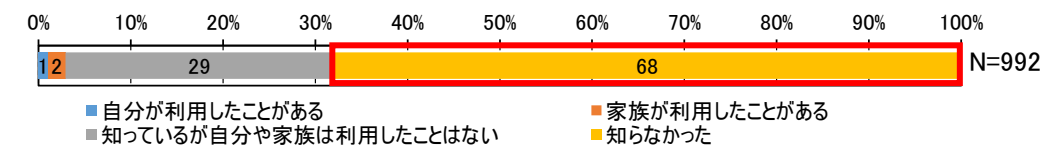


＜利用するための条件＞



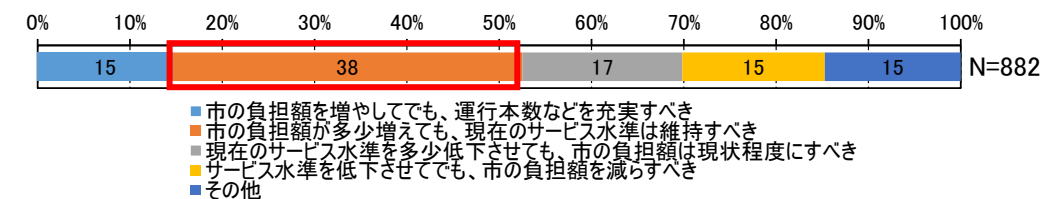
(4) 福祉輸送事業の認知度

■ 市民の約 68%が、「福祉輸送事業について知らなかった」と回答しています。



(5) コミュニティバス・デマンド交通の負担について

■ 市民の約 38%が、「市の負担額が多少増えても、現在のサービス水準は維持すべき」と回答しています。



(6) 海津市の交通機関の満足度

1) 市民の約 50%が、交通機関の満足度について、「不満」または「やや不満」と回答しています。満足度が比較的高い地区は下多度地区、比較的低い地区は吉里地区・西江地区です。

